行った青年団

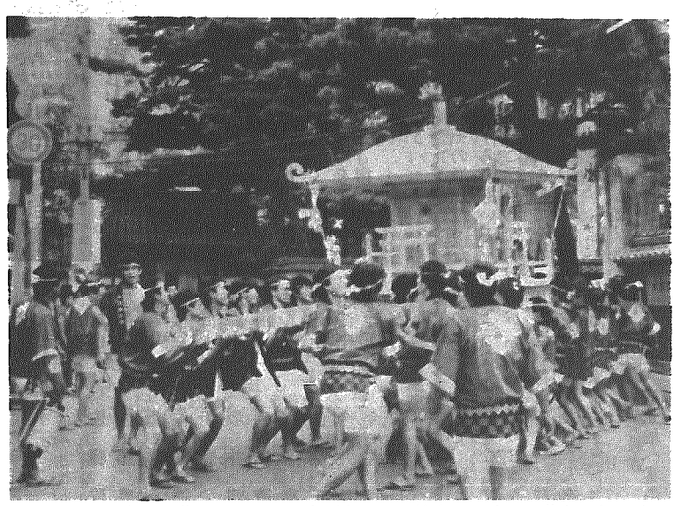
6人、消滅寸前

今年は、国際青年年。未来を築く――それはいつの時代も青年の役割です。

家庭、地域社会、国際社会など青年を取り巻く〝社会〟はさまざまですが、青年が自らの意思、判断、活動によって積極的に社会参加を進めていくことが求められています。

しかしながら、今日の村の青年たちの実態を見ると、職場活動やスポーツ・文化活動を通した社会参加は、ある程度見られるものの、青年個人あるいは、青年団のように社会活動的側面をもった団体の社会参加が影をひそめているようです。

そこで今回、最近とみに激減し団員数わずか六人という消滅寸前の〝青年団〟について、青年団は、地域に必要なのか。どうすれば再建ができるのか特集してみました。



沢海木遣り復活で若ものたち80人余が参加。お神輿もつくり、若ものたちは、祭りでエネルギーを思いきり発散していた。

昭和30年代から衰退の一途
青年の職業多様化も要因

かつてどこの市町村でも組織されていた青年団が、今までは衰退の一途をたどり、壊滅状態にあります。

横越村もその例外ではなく〝だっこちゃん〟人形で爆発的人気を呼んだ昭和三十五年には、青年団員は、十五歳から二十五歳まで一九・一％に当たる二七二人いたのが、四半世紀経った今日では、わずか六人で横越下、木津地区に形だけあるのみで、消滅寸前にあります。

青年団の衰退は、昭和三十年代に入って、高度経済成長とともに、青年をとり巻く社会環境、生活環境が大きく変わり、上級学校への進学増加農家の二、三男の他産業への就労、更に、兼業農家の進行で、青年団を支えてきた農業後継者が減少してきたことが要因といえます。

もちろん、青年団の活動自体に問題も多く残されています。例えば、団員の加入促進不足、活動のマンネリ化、リーダーのなり手がいないなど。

村には十九歳から二十五歳までの青年は七〇〇人余もいます。

多くの人たちは、村の将来を担う青年として、青年の社会参加と村や地域のことを積極的に考えることを望んでいます。また、青年団の再建を望んでいます。再建について住民の意見を聞いてみました。

6月4日～10日「歯の衛生週間」

むし歯　中学生 全国一、県大きく上回る。小学生は逆

六月四日から十日は「歯の衛生週間」。この機会に歯の健康について考えてみましょう。

昭和五十九年度の学校保健統計調査によりますと、むし歯のある（処置完了者も含む）児童・生徒は、横越村では、小学生が七四・〇％で、全国の九一・五％、新潟県の八九・二％より大きく下回っていますが、中学生は逆に、九七・八％で、全国の九二・二％新潟県の九一・八％より六・〇から五・六ポイント上回っています。

むし歯は、口の中にいつもいて糖分を栄養に繁殖しているミュータンス菌が引き起こします。つまり、ミュータンスの塊、歯垢の中にできた「酸」が次第に歯を溶かしていく――これがむし歯です。

歯みがきは、むし歯予防には欠かせないものです。

健康相談を開設

六月から保健婦による健康相談を開設しました。ご利用ください。

毎月第二火曜日、6月は11日、午前9時から午後4時まで役場保健室

横越村内交通事故発生件数〈60年3月末〉

	発生件数			死者		負傷者	
	本年	前年	増減	本年	前年	本年	前年
横越村	10	5	5	0	0	14	6
南蒲管内	50	48	2	0	0	60	59
県計	1,353	1,519	△166	35	18	1,718	1,873

【作業停電】

6月21日(金)
午前8時30分から12時まで
二本木一部、木津一部
午後1時30分から4時30分まで
木津一部

7月5日(金)
午前8時から11時30分まで
小杉一部

7月5日(金)
午後1時から4時30分まで
横越中全部

どこへ

わずか

目立たないが、通勤・通学者に時を知らせている給与連の時計（横越バス停）

時間を守っていますか

まだある横越時間

クオーツ時計（水晶発振器の固有振動を利用した時計）は、一か月に十五秒前後の遅進というから非常に正確で、今ではどこの家庭でも、誰れでも持っているようです。

そんな正確な〝時〟を必要とする社会で、旧態依然と「横越時間」が存在し、定刻より数十分遅れでようやく会合等が始められることも少なくありません。

昨年、村生活学校の婦人たちが行った「生活改善アンケート」の中で、回答者四三六人のうち、「会合等の時間を守っていない」と答えた人は、七・八％という調査結果がまとめられました。横越時間が存在しているのは、こうしたごく少数の人たちですが、それが定刻に来た人たちや、会合等を主催する人に迷惑をかけていることになります。

また、同アンケートでは、会合等の時間厳守の問いに対して、八一・四％の人が「俗にいう横越時間をなくし、時間厳守を励行した方がよい」と答え、横越時間が存在し、その改善を求めています。なかには、「時間厳守を励行しても、今までどうりになるのでやらなくてよい」が約一〇％あり、「時間を守っていない」と答えた人より多く、〝時間を守ること〟は、申し合わせよりも、一人ひとりの公徳心が大切であると指適しています。

六月十日は「時の記念日」です。この機会に〝時〟ということを考えてみてはいかがでしょうか。

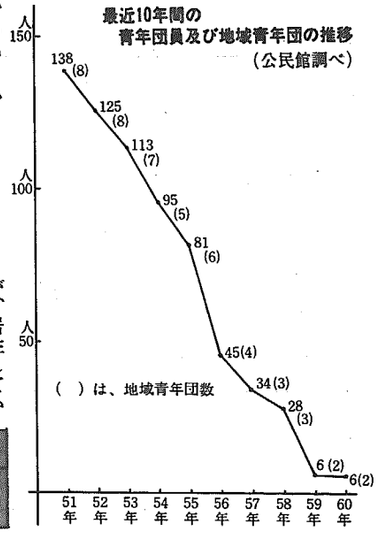
青年団は、必要か
地域の活性、仲間つくりに不可決

――青年団は、必要か。

村民――必要かどうかは、青年たちが考えること。昔、青年団は、お祭りなど地域の事業で重要な役割を果してきたが、今は、行政や地域自治が円熟してそれほど必要とは思わない。

村民――あった方がよい。青年団がしっかりしていれば、村も地域も活気がある。青年自身も幅広い仲間を求めることができる。

村民――村を担う青年たちが、居住している地域が単なる宿泊の場となっていることは残念だ。若い人も積極的に地域のあり方を考える必要がある。その意味で青年団の組織が必要である。



昭35年	昭40年	昭45年	昭50年	昭55年	昭60年
人	人	人	人	人	人
372	230	122	127	91	6

村民――もともと青年団があまり活動していなかったところで、必要とは思わない。しかし、青年たちが集られる事業を行政で積極的に考えてほしい。

どう再建するか
全青年に意識調査を、青年が参加できる事業の計画を

――青年団をどう再建するか。

村民――教育委員会や公民館の青年団対策が欠けていたのでは。社会教育や青少年問題協議会で真剣に討論していく必要がある。

村民――現在の青年たちが青年団をどう認識しているかである。青年団で全村の青年にアンケート調査してみたらどうか。

村民――ある町で青年団が壊滅状態になった。教育委員会や青年団OB、それに青年たちが青年が何を求めているか調査し、スポーツや文化グループをつくり、青年団体協議会を結成したということがあった。こうしたことも再建方法のよい例と思う。

村民――野球大会で三〇チーム近い参加があることを考えると、若ものたちが参加できる事業を計画すべきだ。また、行政は、青年の社会参加の促進をはかるために、行政の審議会などで青年たちだけで構成したプロジェクトを考えてもおもしろい。そうすれば、仲間づくりや組織づくりにもつながってくると思う。

みんなで総合健診を受けよう

7月1日（月）
二本木（二本木公会堂）

7月2日（火）
木津（木津分館）

7月3日（水）
午前　川根谷内（妙泰寺）
午後　藤山・駒込（藤山会館）

7月4日（木）
小杉（小杉分館）

7月5日（金）
午前　焼山（焼山集落センター）
午後　沢海上（環境改善センター）

7月8日（月）
沢海中・下（環境改善センター）

7月9日（火）
横越上・下（横越村公民館）

7月10日（水）
横越中（横越村公民館）

※健診時間は、午前は9時から11時30分まで、午後は1時から3時まで。
※これまで健診を受けなかった人で、レントゲンのみ、7月10日午後5時から8時まで横越村公民館で行います。